

科目区分：専門教育科目・音楽教育
授業科目名：ピアノ（1）
対象年次：1年次～（5名受講）

ピアノ（1）

音楽教育講座・安積京子

1. 授業の目的と到達目標

本授業は、ピアノの基礎的な奏法を学び、小学校から中学校教材程度の簡単な楽曲が豊かに表現できることを目的としている。練習曲、古典ピアノ・ソナタ、ロマン派の作品を取り上げて演習を中心に行い、発表や討議を行う。到達目標は、楽曲のデュナーミク、テンポ、表情記号など楽譜に示された音楽情報を正確に読み取り表現することである。

重複履修可能な授業であるため、今期は1年生3名に加え、2年生2名が再履修した。2年生はすでにピアノ奏法に関する基礎的な知識および技能を習得しているため、更に発展的な内容の課題を実施し、幅広い専門知識と高度な演奏能力を身につけることを目標とした。

2. 授業の概要について

本授業は、中等音楽教育コースと初等教育コース（小学校サブコース）の学生を対象に開講されている。受講生が興味のあるピアノ作品を1～2曲選び、半年間かけて練習し仕上げる。授業は個人レッスンが中心であり、毎回一人約30分間指導を行う。受講生は他の学生がレッスンを受けている間、聴講する。またお互いの演奏に対してコメントをする。

3. 関連するディプロマポリシー

- 1) 教育と教職に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している。(知識・理解)
- 2) 教育活動に取り組むための十分な技能を身につけている。(技能)

4. 授業の課題について

以下に受講生が選択した課題の一部を記す。
○ベートーヴェン作曲：ピアノ・ソナタ第8番 Op.13「悲愴」第1楽章
○モーツァルト作曲：ピアノ・ソナタ第26番 KV545 全楽章

- クラーマー＝ビューロ作曲：60番練習曲第8番
- ツェルニー作曲：30番練習曲第26番
- ブラームス作曲：ラプソディー Op.79-1
- ショパン作曲：ポロネーズ第1番 Op.26
- ベートーヴェン作曲：ピアノ・ソナタ第20番 Op.49 第2楽章

5. 指導上のポイント

1) 課題曲選曲に関して

1～2曲を長期間かけて取り組むため、課題を熟考して適切な難易度の曲を選択することが重要である。個々の学生の性格（気性）に合い、得意な表現分野を生かせる課題曲を選曲できるよう、適宜アドバイスをを行った。

2) 演奏指導に関して

- 困難な箇所が弾けずに悩んでいる学生には、複数の練習方法を例示し、模範演奏をしながら丁寧に指導をした。
- 豊かな表現力で演奏するために、オーケストラの様々な楽器の音色を想像させ、アーティキュレーションやフレージングを考察し、タッチの仕方を工夫させ、音作りを行った。
- 和音を美しい音色で効果的に響かせるため、指先と腕の使い方を繰り返し指導した。
- 音楽の自然な流れを追求するため、フレーズの取り方やテンポ・ルバートの加減を吟味させた。
- 古典派ソナタの形式を学ばせるために必要な文献を適宜紹介した。
- 音楽を大きく捉えさせるため、譜面上で楽曲分析を綿密に行い、楽曲構造を学ばせた。
- 作品への理解を深めるため、作曲者の生涯、その時代背景、作風等について調べさせ、授業で発表させた。
- 受講生の練習するモチベーションを高めるため、定期的にクラス内で弾き合い会を行うとともに、一般公開のピアノ研究発表会を企画・運営した。

6. 授業アンケート

本授業終了時に、受講者5名を対象に無記名方式で、下記の8項目の4段階評価によるアンケートを実施した。また自由記述も併用した。

1) 集計結果について

1.本授業に興味を持ち積極的に参加出来たか。
出来た 5名

どちらかといえば出来た 0名

どちらかといえば出来なかった 0名

出来なかった 0名

2.本授業のための準備は毎回充分であったか。
充分であった 2名

どちらかといえば充分であった 3名

どちらかといえば充分でなかった 0名

充分でなかった 0名

3.出席状況は良好であったか。

良好であった 4名

どちらかといえば良好であった 1名

どちらかといえば良好でなかった 0名

良好でなかった 0名

4.授業課題の量は適切であったか。

適切であった 5名

どちらかという適切であった 0名

どちらかという適切でなかった 0名

適切でなかった 0名

5.授業の難易度は適切であったか。

適切であった 4名

どちらかといえば適切であった 1名

どちらかといえば適切でなかった 0名

適切でなかった 0名

6.授業中は良好な雰囲気が保たれていたと思うか。

そう思う 5名

どちらかといえばそう思う 0名

どちらかといえばそう思わない 0名

そう思わない 0名

7.受講後、新しい専門知識や演奏技術を得ることができたと思うか。

そう思う 5名

どちらかといえばそう思う 0名

どちらかといえばそう思わない 0名

そう思わない 0名

8.本授業を受講したことが、今後の学習に有意義であると思われるか。

そう思う 5名

どちらかといえばそう思う 0名

どちらかといえばそう思わない 0名

そう思わない 0名

9.本授業で良かった点(自由記述より抜粋)

○苦手な箇所を克服するために一緒に練習方法を考えてくれた。

○歌い方や弾き方を詳しく丁寧に教えてくださりとても分かりやすかった。

○ピアノ曲の魅力が分かり、演奏上の技能について多く学ぶことができた。

10.本授業で改善すべき点(自由記述より抜粋)

○一気にたくさん言われるといっぱいいいいになって消化できなかった。

○褒められてばかりで、どこが悪い箇所か良くわからない時があった。

2) アンケート結果のまとめ

授業外学習時間は週平均3.8時間であった。ばらつきがあり、1時間練習する学生と7時間する学生がいた。授業準備に関しては、どちらかといえば充分であったと回答する学生が多かった。授業課題の量と難易度はほぼ適切であり、受講後、受講生全員が新しい専門知識や演奏技術を得ることができ、また今後の学習に有意義であったと回答している。

7.「地域社会を核とした教育と研究のつながり」について

1月11日(土)に愛媛県男女共同参画センターの多目的ホールにて、ピアノ研究発表会を開催し、学生の家族や知人・友人、卒業生、地元住民を含めて60名以上の方にお越し頂いた。研究成果を地域社会において披露できたことは、学生の大きな励みになった。今後は地域の学校児童・生徒を招待するなど、学校教育現場を中心に地域社会において、学生を主体とした活動を展開して行きたい。また音楽を通じた社会活動にも積極的に取り組み、地域の音楽文化を更に向上させ、活力ある自立した地域づくりのために貢献したい。